

注意!

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧 URL(<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL(<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

平成19年1月発行

病害虫防除技術情報 NO.18-3

岩手県病害虫防除所

ウコンノメイガ (*Pleuroptya ruralis*) によるダイズの被害状況と防除

ダイズの食葉性害虫、ウコンノメイガは7月中旬から発生し、8月中旬以降に被害が目立ってくる。防除適期は幼虫加害初期の7月末から8月上旬で、防除の目安はこの時期の幼虫加害による葉巻きの数により判断する。

1 発生状況

- (1) 平成17年には県内で広く発生し、花巻市、北上市で多発圃場が認められた。被害を受けたのはダイズの生育量が大い過ぎる圃場と、葉色が濃い黒豆品種(黒千石)で、幼虫による葉巻きが株あたり20個以上の多発圃場もみられた。8月下旬の巡回調査結果では、多発圃場は3圃場(18.3%)で、その全てが黒豆品種であり、防除が遅れた圃場もあった(図1)。
- (2) 平成18年は北上市で7月中旬から成虫、産卵が認められ8月には花巻市、北上市、奥州市等で多発圃場がみられ、前年多発地域で防除が実施された(7月21日病害虫防除速報発行)。

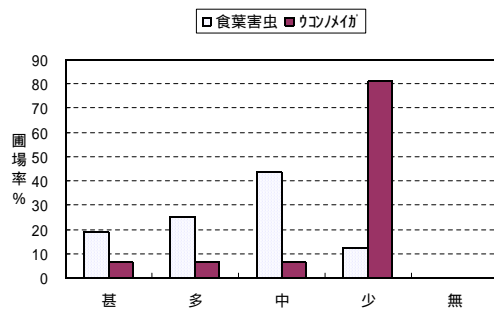


図1 ウコンノメイガの被害程度別圃場率 (H17 8月下旬、16圃場)
食葉性害虫: ヨウガ、ツメクサ、コガネシジメ類等

写真1 被害圃場 (H17 8月中旬)

2 ウコンノメイガの生態と被害

- (1) 岩手県内での越冬状況は明らかでないが、イラクサ科雑草(アカソ、カラムシ等)で幼虫越冬し、羽化成虫がダイズ畑に侵入産卵して7月から幼虫が発生し、葉を巻いて内部から食害する。1か月程度で蛹化し8月下旬以降に成虫が羽化する。羽化した成虫はダイズ畑から移動し越冬主に産卵するといわれる(参考資料1)。
- (2) 平成18年の北上における発生経過(図2、図3)では7月中旬から9月中旬の1回発生が主体で、9月中旬にみられた産卵からふ化した幼虫は若中齢で发育停止し休眠、越冬にはいる世代であり実害はない(光周反応による休眠、参考資料2)。
- (3) 多発すると葉を数枚集めて綴り暴食し葉柄と茎だけが残る惨状を呈する。このため、莢や子実の肥大に影響があり収量・品質を低下させる(参考資料3)。
- (4) 生育量が大い過ぎる圃場や播種時期が早い圃場に成虫の飛来、産卵が多くなり多発する傾向にある。

3 防除対策

- (1) 収量や品質への影響: 8月下旬の葉巻数が20~30個/株になると収量が低下し小粒比率が増加する。このような発生量になる幼虫加害初期(7月下旬~8月上旬)の葉巻数は6個/株以上である(参考資料3)。
- (2) 防除薬剤にはサイアノックス粉剤を用いる。アブラムシやカメムシを対象とした防除でも有効な事例があった(表1)。防除時期が遅れると防除効果が劣るので適期防除に努める。マメシクイガとの同時防除(8月下旬以降)では遅い。

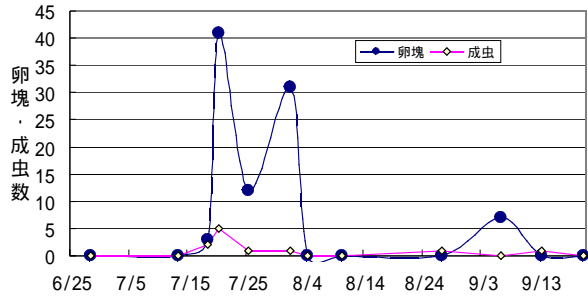


図2 ウコンノメイガ成虫と卵塊の発生消長
(H18 北上、25株当、成虫は10m間
飛び出し数)

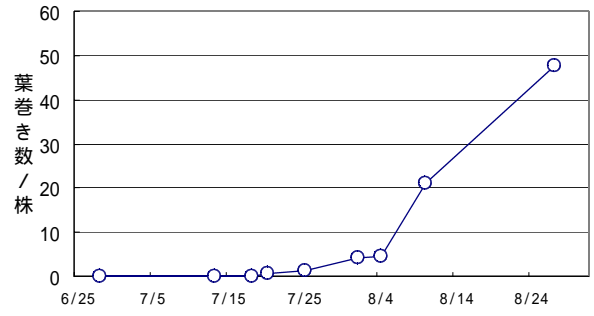


図3 ウコンノメイガ葉巻(幼虫加害)数の推移
(H18 北上、基準圃)

表1 防除試験事例(H18 北上)

区名	調査日	アブラムシ	ウコンノメイガ		
			卵塊	株当 葉巻	無処 理比%
防除区	7.25	1	16	0.3	22
	8.10	-	-	5.3	25
	8.27	19	1	6.8	14
無処理	7.25	8	12	1.4	
	8.10	1	-	21.2	
	8.27	24	0	47.7	

7月21日にスミチオン乳剤1,000倍を散布



写真2 ウコンノメイガの加害状況

: 成虫 : 卵塊 : 若齢幼虫による葉巻 : 分散前のふ化幼虫 : 老齢幼虫と蛹 : 加害盛期の葉巻

参考資料1 成瀬博行・新田朗(1987)ダイズ害虫ウコンノメイガの生態と防除に関する研究, 富山県農技セ研報第1号 P8-16

参考資料2 成瀬博行(1995)ダイズ害虫ウコンノメイガの生態と防除に関する研究, 富山県農技セ研報第16号 P8-16

参考資料3 平成16年度試験研究成果(富山県)ダイズにおけるウコンノメイガの防除基準

事業名: 病害虫発生予察事業